

揚枝 注来の巻



夫揚枝の根元を尋りに昔伊勢  
 の濱浦に白蛇依りて坐りて人間  
 を食ふ乃中なるを畜養して何れも  
 看るその蛇を知りて蛇も大神  
 宮宣ひて其の白蛇は我々の人間  
 肉食としその穢口中に死す  
 たるもの仙神へ祈りて掛動を  
 請ふその口の穢をとりて退よ白蛇世  
 り出外して生れをたあむらひ緘  
 食ひ今日より白蛇の形を柳の枝  
 を取らば此の才と食ひて其の毒を  
 見らば口中を清しむる白蛇の  
 つつとまらぬとて御告め  
 その御告めは世人民にや柳の枝  
 を取て蛇の形を削りて口に置く  
 と此の毒を清しむる御告め  
 なるに柳の枝を用ひ  
 可なり

一 楊枝を削るその木の皮のうすい面を  
 削りて此の毒のうすい面を削り  
 せんその毒を削りて此の毒を削り  
 此に元のその毒を削りて此の毒を  
 削りて此の毒を削りて此の毒を





先ずその端をけつりしは表を削り  
 次は元のその端を削り以てその裏を  
 削りし次は裏を削りてその裏の  
 皮を面分切るべき次は裏を削りし  
 切るもの形

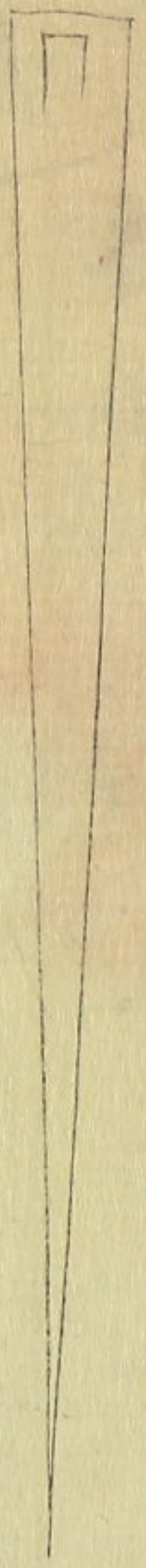
一楊枝を削り調伏の少刀を云い  
 けつりけつり立ちあて削り納免  
 て細口付を裏より一刀次表より  
 一刀次は皮を一文子に切るとし  
 を二ツ一ツの刀と云ふ

楊枝之圖

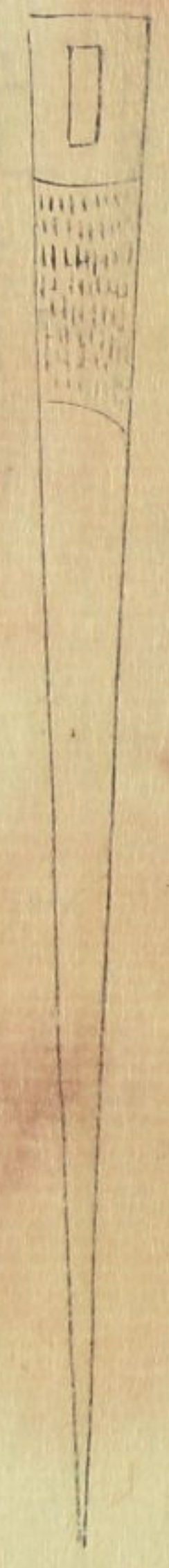
嫁娶よみ此木二ツ割皮付



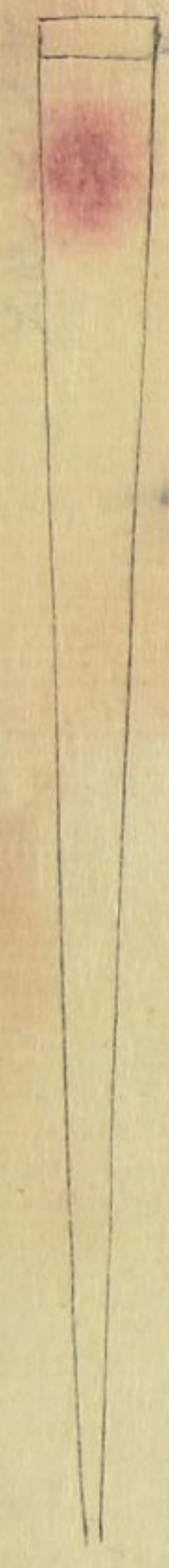
主人貴人



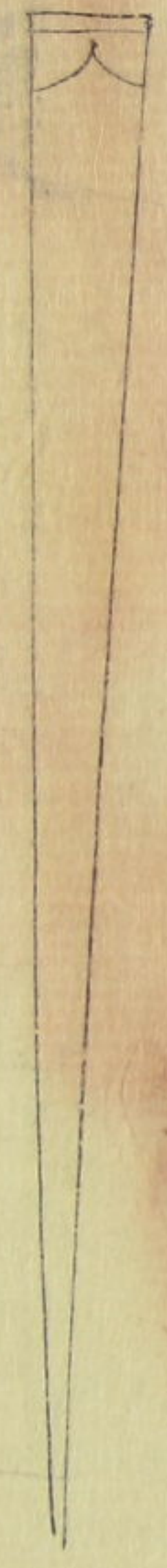
春皮付



夏



種



冬



冬



元服袴着



上着の方



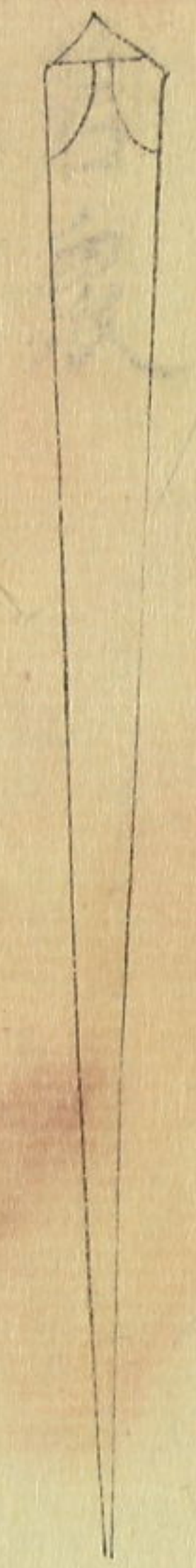
児の楊枝



若衆



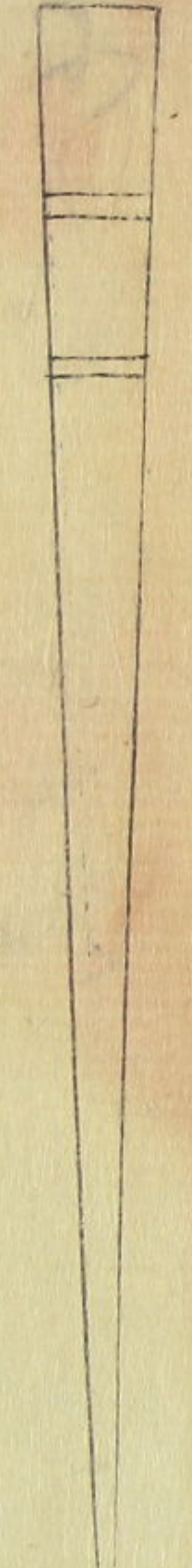
調伏



あむいりやせ



患



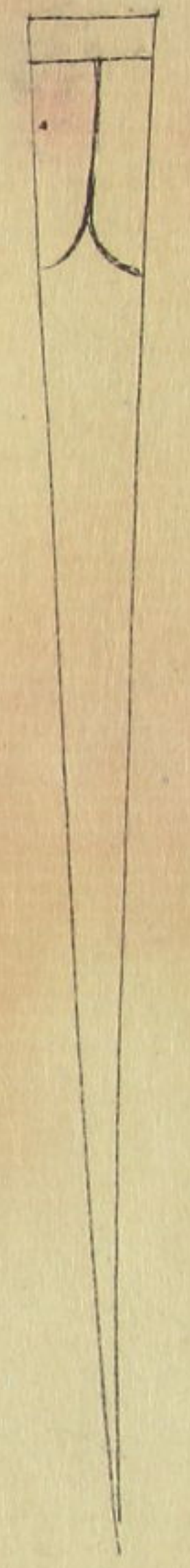
患



あむいりやせ



高しき人



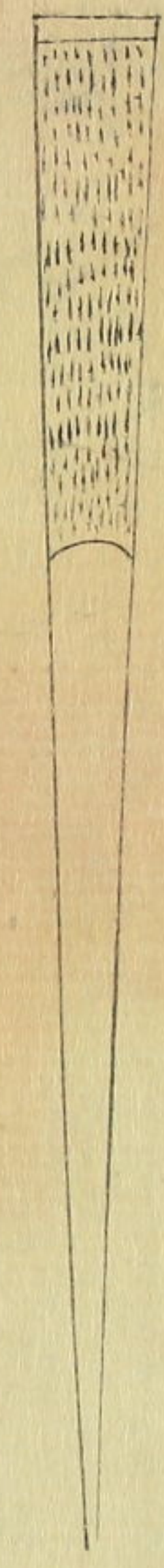
恨あふ人



きり



軍陳



是も軍陣の用



別重



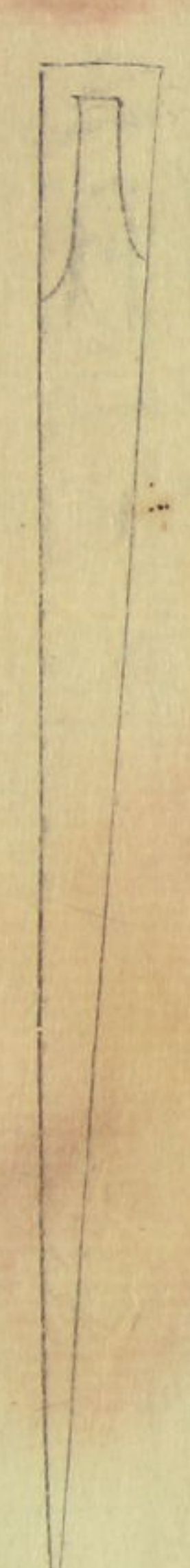
元日



三月三日



五月五日



七夕



七夕

九月九日

節分

秋楊枝口付くく菓子活出

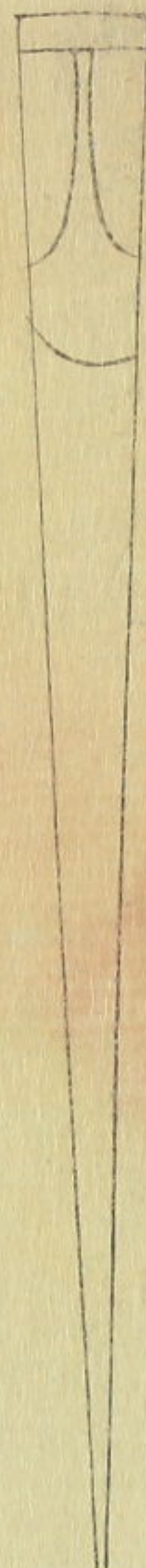
出家の僧

老僧

菓子と漆の楊枝皮付二割  
凡の木より柳を用

右同断梅櫻ふとて割る  
但しけし木ちるし

初念の周

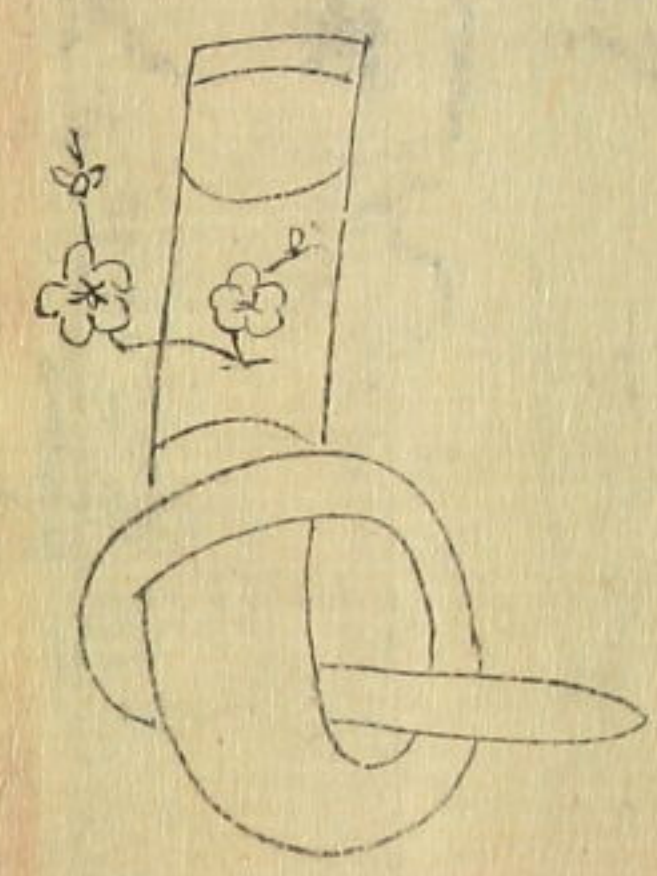




新念の周



送り楊枝は竹の本を以て此  
削り割りとせし送るものと  
文を以てても



一 楊枝は用ゝ木の事柳根元より  
そのわらふい爪木いりて山柵松よ  
て割るすい西多あり又松楊枝  
よの松柵を以て割るし又若葉  
子よ流して出以楊枝よを爪の本を  
以て可割是も柳を以て割るす不  
答のり

一 楊枝は昔より四寸又定るこ  
むけの楊枝を融の首より其齒  
付る柳はよ用ゝものこ

右一巻雖為秘事依御極心  
記進ら畢根名可有外見者



右一卷雖為秘事依御極心你  
記進之畢根石可有知見者

水島卜也

之成

延享二年八月

伊藤甚奮心

辛辰

松岡清

助  
辰方

森洞



百里



延享三年八月

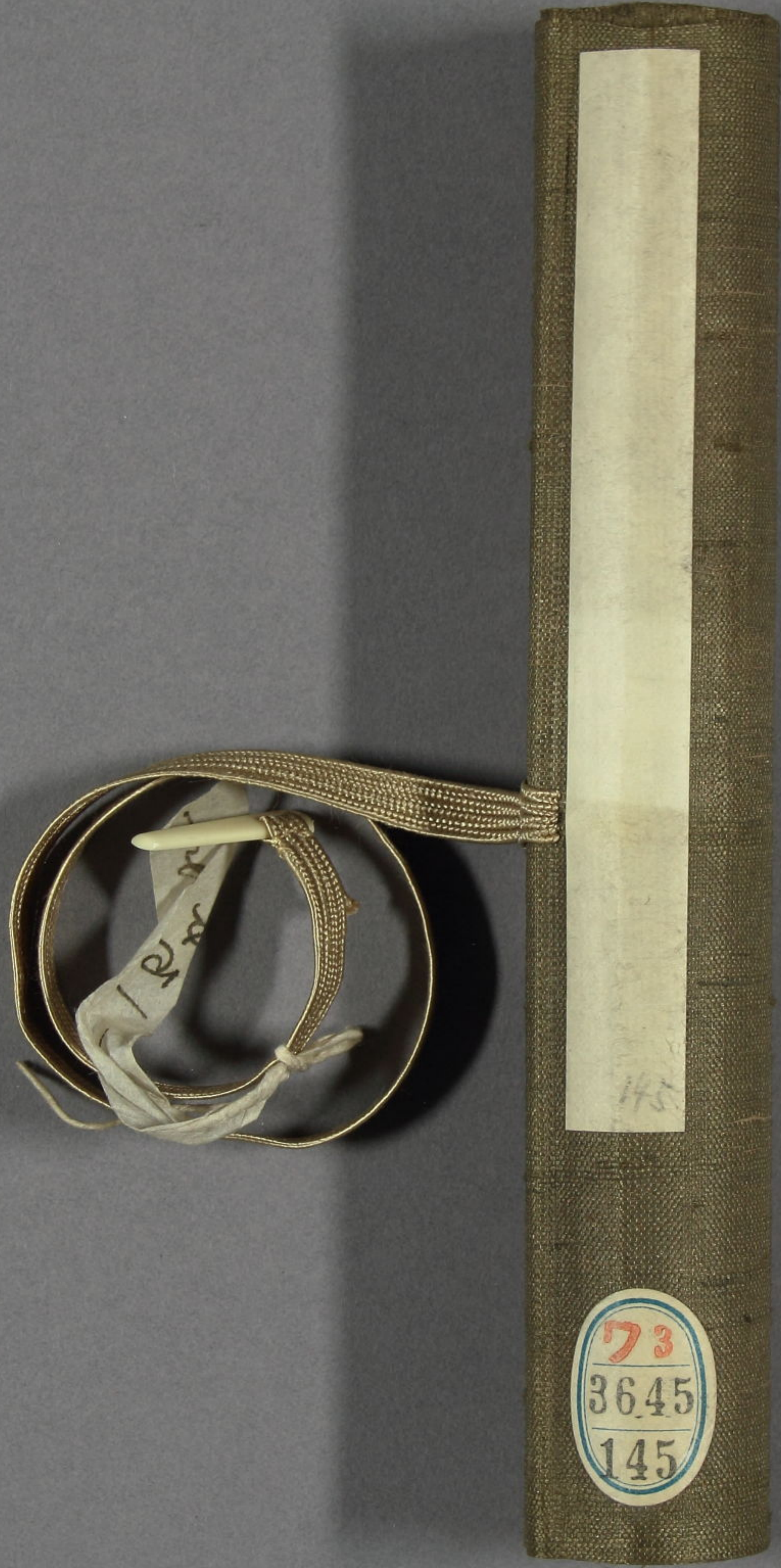
伊藤甚有門  
幸辰

松岡清助  
辰方

森洞

百里  

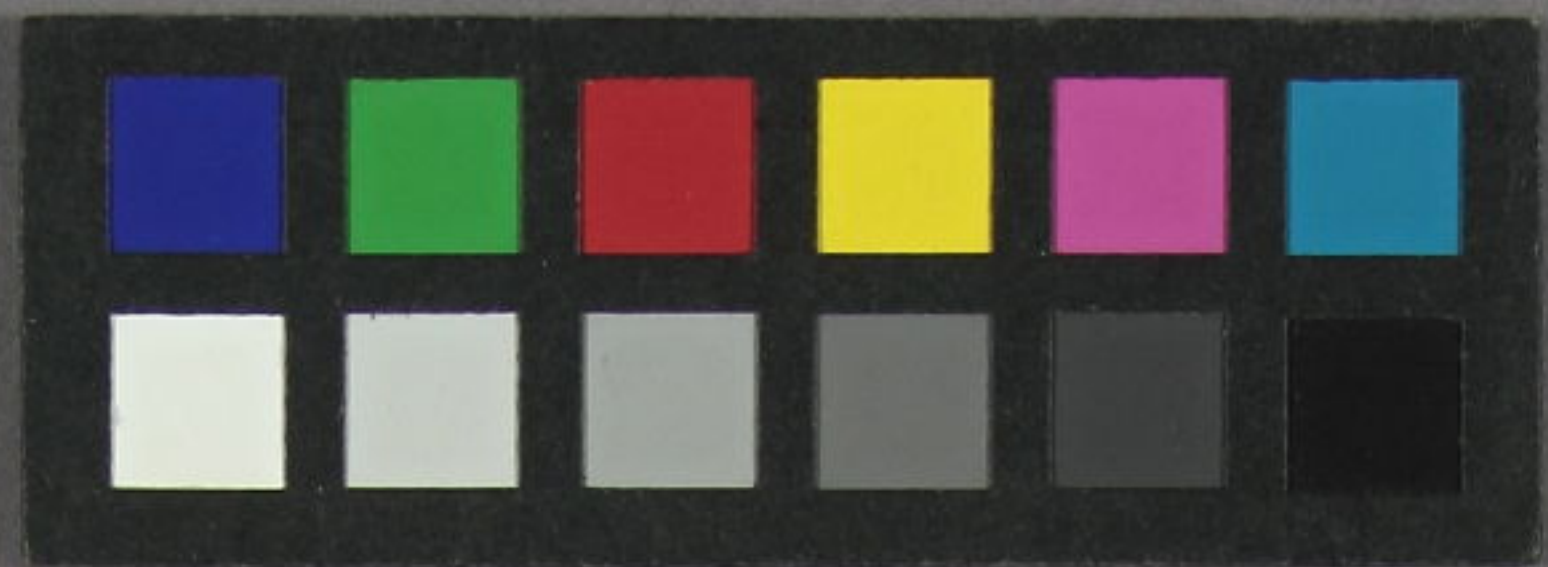


73  
36.45  
145







揚枝淫来の巻



73 特  
3645  
145





145

73  
36.45  
145

卷之五